

新規採用奨学生の紹介！



サイラス・ムアニア・ムニャウくん

シミシ セカンダリースクール

2 年生

サイラス君は、9 人家族の長男として、祖母、母、プライマリースクールに通う 6 人の弟妹と、キツイ南部のカキザ地区で暮らしています。父は 2012 年に病死したため、長男であるサイラスくんは、少しでも家計を助けるため、勉強の傍ら、片道 10 キロかけて水汲みに行き、農作業・炭焼きを手伝い家計を助けています。サイラス君の日常は、朝 4 時に起床し、片道 1 時間半かけて通学し、夜は 19～23 時までランプを使って物置で勉強しています。学校でのサイラス君は、クラスのリーダーでとても真面目、勉強以外にもバレーボールとサッカーを頑張る活発な生徒で、家庭では弟妹の面倒もよく見る優しいお兄ちゃんです。ターム 2 では、学費未払いのため、3 週間ほど通学できない期間があったにも関わらず、日々の努力の成果もあり、成績は KCPE320 点、Grade B と健闘したサイラス君。今後は、学業に専念するため、通学生から寮生のボーディングに変更します。将来の夢である、弁護士、大学講師、エンジニアに向けて、ますます勉学に励むサイラス君の応援よろしくお願いします！

(27 年度 4 次隊 樋口晴子)

奨学生の最新成績

奨学生のターム 2 の成績を公開します。

奨学生	学年	2016 年 ターム 1 成績	2016 年 ターム 2 成績	校内順位
オニャンゴ・ジェミマ	1	A-	B	134 位/432 人中
ロナルド・カシオカ	1	B	B	11 位/85 人中
ケビン・マイナ	2	C	B	137 位/309 人中
オンディエック・ラウイ	3	B+	B	23 位/186 人中
マーガレット・ネーマ	3	B-	B-	89 位/350 人中
ファトゥマ・モシン	4	C+	B	22 位/118 人中

大変遅くなりましたが、昨年度卒業生の最終成績をご報告いたします。

ダイアナ・チェベットちゃん (支援期間 2014-16 年)

(Kong'otik Girl's high School) 2015 KCSE B-

英語 C スワヒリ語 C+ 数学 B+ 生物 C 化学 C+

歴史 C+ キリスト教 C+ ビジネススタディー D+ 音楽 C+

現在は、大学進学に向けて入学資金を貯め中！



【特集】KESTES 奨学生が繋ぐ未来

「なぜ勉強するのか、なぜ大学に行くのか、なぜ仕事をするのか。」

簡単なようで難しいこの問いに真正面から答え、ケニアの子どもたちに大きな希望を与えてくれた若い KESTES 卒業生たちがいます。児童拘置所に派遣されていた松田隊員と KESTES 卒業生が共同実施した「キャリア講演会」。それは、KESTES 卒業生が、児童拘置所で自分の将来について悩み、もがく子どもたちの未来を変える一端となりました。今回は、この企画から KESTES の支援がつなぐ未来を考えます。

「キャリア講演会のはじまり」

子どもたちに「将来の夢はなに？」と問いかけると、パイロット、ニュースアンカー、コンピュータエンジニア・・・色とりどりの答えが返ってきます。しかし、どうすればそれを実現できるか知っている子どもは多くありません。たとえば、ケニアの高校生の間では、夢は医者であるにも関わらず授業で生物を選択しておらず、大学に願書を出すときになって初めて自分が要件を満たしていないことを知るといった事例が頻発しています。正しい情報に触れ、適切な進路を考え、選択する機会に欠けているのです。犯罪の容疑がある子どもを一時的に拘置するリマンドホームという施設で数学や英語の指導にあたっていた松田隊員は、こうした教育現場の現状を知り、ただ勉強を教えるだけでは貧困がもたらす負の連鎖を断ち切るのは難しいという課題に気づきます。いわゆる「普通」の子どもですら将来を選択することが難しいのに、一度拘置所に入った経歴を持つ児童は、さらに進路の幅が狭まってしまう可能性が高い。では、この施設で彼らがより良い将来を選択するために必要なことはなにか——ここから、リマンドホームの卒業生をスピーカーとして招き、人生の選択について学ぶ機会を与える「キャリア講演会」のアイデアは生まれました。

講師になってもらうのは、拘置所での経験を乗り越え、現在は自立して社会に貢献している人物。できれば若く、最近の進学や就職情報を持っている人物が望ましい。そして何より、自分自身やケニアの将来に希望を抱き、子どもたちにそれを伝える力を持った人物。そんな条件を満たす人——探してみると意外にもすぐに見つかりました。そう、KESTES の卒業生たちです。



（キャリア講演会を実施した松田隊員と卒業生トーヤ）

細く長く 30 年にも渡って続いてきた KESTES の歴史は、着実に優秀な人材を育てています。以前は、原則二年で帰国してしまう運営委員と卒業生とのコンタクトの継続が大きな課題でしたが、近年のケニアでの携帯電話の普及、WhatsApp や Facebook など SNS 文化の浸透が、支援終了後の卒業生フォローアップを少しずつ後押ししてくれています。この「キャリア講演会」は、そうして細々と繋がってきた支援の糸をたぐり寄せて結集することで実現しました。

4月14日、最初の講師として教壇に立ってくれたのは、2014年卒業のトーヤ（24）。電気も水道もない貧しい村で生まれ育ち、冤罪でリマンドホームに入れられた時期もありましたが、ずば抜けた学業成績と明るく誠実な人柄で、KESTES 奨学金を勝ち取りました。高校時代は土壁と藁ぶき屋根の家の中、ロウソクの光で夜中の3時まで勉強し続け、優秀な成績で卒業。現在はキリフィ・カウンティ政府でのインターンや NGO でのアルバイトをしながら、大学進学資金をコツコツと貯めています。**貧しさの中でも自分の知性を磨くことを決して諦めなかった彼の最大のメッセージは、「親の貧困は君の貧困じゃない。君の貧困を終わらせるのは君自身だ」。**高校卒業後、ストレートに大学に進学できる人は少ないため、トーヤが進学費用を得るために起こした具体的なアクションは、多くの子どもの経済的な不安を解消し、勉学に励むモチベーションを大幅に向上させました。



続く4月22日に講演に来てくれたのは、2009年卒業のルーベン（27）。アルコール中毒の父と病気がちな母を持ち、機能不全な家庭に育った彼。幼



少期に家出をし、警察に保護されるまでの2年以上をストリートで過ごしました。「道端では毎日イヌやネズミと同じものを食べてたよ。それと比べたらリマンドの生活

って悪くないだろ？ **自分の人生なんだから**

諦めちゃだめだ。悲観しちゃだめだ。今日から毎晩、前向きに人生を計画するんだ。いいね？」と、熱く説き続けたルーベン。彼の将来の夢は、ケニアの大統領になること。そのために、まずは自分と同じ境遇の子どもたちを救いたいと、地元ティカでストリートチルドレンの支援団体を立ち上げ、大学時代の仲間

たちと協力しながら勉強会の開催や執筆活動に精力的に取り組んでいます。

5月2日、最後の講演は、2012年卒業のブライアン（25）。アフリカ最大規模のスラム、キベラで生まれ育った彼は、警察に捕まってリマンドホーム・更生学校へ送致されるまで、「悪いことはほとんどやった」と告白。現在の精悍な姿からは想像がつかず、子どもたちも驚きの表情を浮かべます。送致先で手本となる友人や先生と出会って更生し、自分の強みと弱みを冷静に分析した彼は、「周りの人たちに自分の良さを売り込むことで、チャンスをモノにしていって」の



だと語ります。KESTES の支援で高校を卒業した後は、更生学校の職員たちからカンパを得て専門学校に進学。在学中から日本人が主宰する NGO でのインターンを取り付け、今年5月、晴れて正職員として採用されました。

学校の成績はあまりパツとしなかったブライアンですが、誰からも信頼される堅実な人柄と、厳しいケニア社会を堂々と生き抜いている力強さ。その自信に溢れた姿そのものが、子どもたちには大きな希望として映りました。

全3回のキャリア講演会の後、子どもたちの95%が「将来への不安が軽減した」と答え、リマンドホーム出所後の計画を具体的に述べられるまでに成長しました。講師の話を聞いて、「生きる気力を取り戻した」、「人生は自分の手の中にある。自分の行動で未来を変えられると知った」、「彼らのように若者に希望を与える人間になりたい」といった前向きな感想が、講義に参加した多くの子どもたちから生まれています。KESTES は、教育を通してケニアの未来へ投資しています。「教育は成果が見えにくい」としばしば言われますが、いま、トーヤ、ルーベン、ブライアンのような優秀で熱意に溢れる若者が、新しい社会のために確実に前向きな変化を生んでいます。KESTES の支援が次世代へとつながり、健全で明るい社会へ貢献し続けていくことが、私たちの願いです。

**クラウドファンディングのご協力者に
KESTES の新デザイン T シャツをプレゼント！**



25 年度 3 次隊マーケティング隊員としてケニアの最西南にあるミゴリカウンティで大豆普及に従事していた薬師川智子さん。任期終了後、同地で SCM 会社を設立し、農家などのケニアの方々の QOL 向上のために奮闘されています。そんな彼女が現在クラウドファンディングに挑戦中で、一部の支援者にお礼として KESTES の新製品であるアニマル T シャツを採用してくれました。薬師川さんから現在どんなチャレンジをされているのか、そして T シャツを採用してくれた理由を聞いてみました。

元ケニア協力隊・KESTES 委員、現在同国にて Alphajiri Limited(アルファジリ)の代表をしています薬師川です。弊社は大豆を足がかりに「売り先が分からない農家」と「安定供給・品質に悩む加工メーカー」の間に立ち、農産物のサプライチェーンを提供する商社です。農家をグループ化して種子配布や栽培指導をおこない、収穫期にはグループの集荷場で、収穫を検品し引き取ります。貯蔵された大豆は、選別・検品を経て、加工メーカーに卸されます。この取組みにより、契約農家は現在約 300 名、取扱量は年間約 150 トンにまで増加しました。一方で、流通量が増えるにしたいが、業務量は機械化を進めないと手に負えなくなってきました。今回弊社は、クラウドファンディング Ready for?にて支援をつくり、業務を効率化・拡大するために必要な機具を導入したいと考えています。目標金額の 200 万円を達成できれば、3 万円以上を支援してくださった方へのお礼に、新デザインの KESTES T シャツをお送りします。Alphajiri も農業のサプライチェーン改善をととして「ケニアの子供たちの未来を応援したい」と活動しています。今回のご支援が、KESTES や協力隊など同じ目標に取り組む人たちに波及し、KESTES 奨学生への支援につながることを願っています。Alphajiri への支援は、以下へのアクセスをお願いいたします！ <https://readyfor.jp/projects/Alphajiri>

貧困から学校へ行けなくなる子どもたちを減らしたいことなど、ここでは表しかけていない熱い思いが ReadyFor?にて書かれています。ReadyFor?をご覧ください、支援の手を伸ばしていただければ幸いです。KESTES も薬師川さんの活動を応援しています！

販売開始早々大人気の薬師川さんデザインの新 T シャツ。「愛」をテーマに、動物の中のさりげないハートがとても可愛いデザイン。背中には、スワヒリ語で「愛し合おう、与え合おう」の言葉がプリントされています。



※クラウドファンディングのご協力者への
プレゼントはこちら！

ふれあい祭りに出店しました！

9 月 17 日にナイロビ日本人学校で開催されたふれあい祭りに出店し、KESTES の活動を広報させて頂きました。沢山の方々に興味をおもち頂き、引き続き KESTES サポーターとしてご支援頂ける方、新しく KESTES サポーターになって下さった企業や個人サポーターの皆様、皆様のご支援があるからこそ、今後も KESTES がケニアのこどもたちの支援を続けることができます。ありがとうございます。

また、初お披露目だった新デザインのアニマル T シャツも大好評！
今後も精力的に活動していきますので、今後ともよろしくご支援の程、
よろしくお願いいたします。



KESTES は以下の企業のサポートを
受けています。
いつもご支援ありがとうございます。



Mitsubishi Motors Corporation -Nairobi Liaison Office-

<http://www.mitsubishi-motors.com/jp>

ケニア旅行や出張に
運転手つき
レンタカー

 EXCIA East Africa, Ltd.



詳しくはコチラ▶

EXCIA East Africa, Ltd.

<http://exciacarhires.com/>

※毎月売上の一部を KESTES に寄付頂いています。

ROHTO



ROHTO-MENTHOLATUM (KENYA) LIMITED

www.rohto.co.ke



CHEKA

JAPANESE IZAKAYA

<http://horientertainment.wix.com/cheka>



JKUAT NISSIN FOODS LTD.

<https://www.facebook.com/#!/jkuatnissinfoods?fref=ts>

Delights

<http://delights.jp>

Delights

<http://delights.jp/www/company.php>

KESTES 新メンバーのご紹介

奥山さやか(28 年度 1 次隊):物販班 / 牧 ちさと(28 年度 1 次隊):会計班
大木 圭佑(28 年度 1 次隊):広報班 / 石川 剛章(28 年度 1 次隊):総務班

K E S T E S 委員 17 名・奨学生 7 名(2016 年 10 月現在)

Kenya Students' Educational Scholarship

Website <https://jocvkestestop.wordpress.com/>

問合せ先: kesteskenya@gmail.com

文責 : 27 年度 3 次隊 田上沙慧美